

東北復興日記

126

いわきおてんとSUN企業組合
菅野友美さん



福島と韓国つなぐ白い糸

韓国ソウルにある職業訓練校「Haja Center (ハジャセンター)」を、昨年十一月七日から三日間、訪問しました。写真。ふくしまオーガニックコットンプロジェクトでできた綿の種を昨年から栽培して、その収穫祭に参

加。いわきでの震災後のコットン栽培についてのお話もさせていただきました。

「ハジャ」は韓国語で「やってみよう！」の意味で、正式名称はソウル市立青少年職業体験センター。一九九九年に行政と市民が連携して設立されました。ソウル市が支援、延世大学に事業委託し運営されています。青少年の進路設計やオルタナティブ教育、創意的教育プログラム、持続可能な職場の創出、コミュニティビジネスの支援などが行われています。

中学・高校、青年部の学生たちが学校に通いながらハジャに来たり、ひきこもりなど



で学校でなくハジャに通っている人もいます。

「綿に恋愛中」と題した収穫祭では、糸の手つむぎ、手づくり木製織り機での織物や、山から採ってきた材料を使ったかご作りなどを、三日間かけてゆっくりじっくり行いました。ただ「体験してみよう」「楽しく参加する」だけでなく、「今、それをすることによってどんな意味があるのか」を深く考えながら進められます。これは、ハジャで何度も教えられた、大切な言葉です。今この時代に生を受けた私に大きく響きました。

東日本大震災に関連し、福島への質問がたくさんありま

した。福島を自分たちの目で見たいと思うが、本当に大丈夫なのか。福島に住む私たちでさえ、百パーセント安全ですと言い切れない今、これが人々の現実的な気持ちだと思います。

最後に校長のヒヨクさんが「私たちは来年からは自分たちだけでも綿を育てられるでしょう。でも、毎年、収穫のときなど、また福島からハジャに来てほしい。そうした、つながりを続けていくことが大事なのです」とおっしゃいました。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。